



男性更年期障害(1)

日本の平均寿命は、80年前は50歳台でしたが、今は「人生100年時代」となっています。処が、40・50歳で仕事に集中できないとか、よく眠れないなどの体調不調を訴え始めます。「歳の所為(せい)」にしまいがちですが、これが何と「性ホルモン不足」が原因だったのです！！

微量な性ホルモンは「70年後半によく測定できるようになり、日本では」78年に初めて熊本悦明教授が報告しました。博士は三浦雄一郎(上図)の主治医として男性ホルモン療法(HRT)を行っています。

この男性ホルモン「テストステロン」は本来、子孫を残すためのホルモンですが、その為には配偶者を見つけ、自らをアピールし、強い力で捕まえ、血液で勃起するなど知力、気力、体力が不可欠です。これらの機能を全て持ち合わせたホルモンですが、加齢と共に著減します。コレステロールから作られ、女性にも男性の3分の1存在しています。

男性は45歳頃からテストステロンはゆっくりと低下し、70歳代では半数が病的に減じて「男性更年期障害」に陥ります。勃起不全や夜間頻尿、不眠、心筋梗塞・脳卒中、糖尿病さらに物忘れ・うつ病の症状を引き起こすことが分かってきました。

～男性更年期障害(LOH症候群)～

▼男性の「朝立ち(勃ち)」は女性の月経に相当しますが、血管系疾患の目安になります。早朝に勃起がないのはホルモン低下に因る血管硬化の警告の初期サインです。中年管理職を襲う突然死はストレスに因るホルモン低下によるものですが男性の平均年齢を短くしている要因です。

▼肥満や糖尿病、高血圧などの「メタボ」も、これまでは過食や運動不足によると云われていました。「ホルモン補充療法」で改善されることよりテストステロンの低下が考えられています。テストステロン低下は、筋肉が「脂肪」になってしまい、運動しても肥満が解消しません。その内臓脂肪は、胴回り/お尻回り比0.8以上ですが、**がん**(大腸や食道、胃、肝臓、膵臓など)のリスクであることが2017年、国際がん研究機関から報告されています。

▼男性の糖尿病は女性の3倍ですが、これも喫煙や飲酒に因るというより、特に若い男性の糖尿病はテストステロンの減少に因ると報告されています。今後は糖尿病でも「遊離テストステロン」の検査が欠かせません。そして **1回/2週**の**ITKEン.デポ**-筋注、**自費900円/回**、**半年間目安の治療があります**。

▼うつ状態や物忘れにおいてもテストステロン療法で自信の回復、疲労感が改善するとの報告があります。さらに、女性も「更年期うつ病」にテストステロン補充療法で改善が診られたなど新しい展開を見せています(関口由紀)。

▽79歳男性、2年前から3,4回の夜間頻尿がありました。漢方薬や民間薬ではほとんど効果ない。処が、エナルモンデポ筋注をして4日目から1回～ゼロになり朝まで熟睡でき、朝立も復活してきました。血管が拡張し循環改善で膀胱や陰茎の容量が増したのです。

▽同級生が、前立腺がんのために女性ホルモン療法を受けていました。めまいがひどく、倦怠感もあり旅行を欠席しました。しかし、その後「テストステロン補充療法」を行った処、とても元気になったと風の便りがありました。

将に、「男性ホルモン補充療法」は健康長寿社会の救世主です。